（付二）

大坂本　元田鎮座神社一覧

本多　天満社　祭神天穂比命・菅公　元禄二年創立
荒木　天満社〃　天菩比命・菅公　元禄十二年創立
　　天満社〃　天菩比命・菅公　元禄三年創立
丸山　天満神社〃　菅原道真公　氏子三十二戸
谷山　天満神社〃　菅原道真公　氏子十六戸
井津利渡山　山神社　祭神大山祇命（石祠）
瀬戸山　山神社〃　大山祇命（石祠）

（付三）

大坂本・尺間地区の民俗信仰

	宇藤木	川中	年ノ神	平上	黒	岡	尺間	長畑	備後	津留	石原	元田	宮ノ下	ケゴヤ	小浪	畑(復巻)	小河	切水	竹峯		計
生目		○					○	○							○	○	○	○			7
火伏	○	○		○	◎		○		◎	◎	○	○				○					7
山神	○											○									2
庚申		○						○								○	○				4
徳防		○																			1
金比羅		○														○			○		3
稲荷							○				○					○					3
天神		○					○	○			○	○		○			○		○		8
権現								○													1
富尾神	○																				1
神武												○									1
地蔵		○																			1
お大師	○	○					○	○													4
観音	○						○														2
石地蔵		○																			1
年神			○																		1
計	5	9	1	1	1	1	6	5	1	1	3	4	0	1	1	5	3	1	2		
備考						合併			合併	合併											

（付四）

元田の祭り行事日程

一月十六日　山ノ神祭　午後一時から一戸一人、荒木奥山の神に参拝、お神酒をささげる。
三月　春御縁　無縁仏の供養、適当な日を協議決める
四月　火伏祭（神武さん）　定日はない、昔は別々にしていたが、今では同日祭式となった。
七月十五日　天神祭（氏神祭）　昔は夏祭旧六月十九日であった。
十月　火伏祭（神武さん）
十一月廿三日　天神祭　冬祭　昔は旧十一月十九日であったが、今は勤労感謝の日となった。

史料

下直見村年代記（二）

―佐藤大庄屋の手記による―

貸料提供　会員　曽宮衛吉（直川村下直見沿内）
解読・年表作成　羽柴弘

年号	西暦	時の藩主	記録事項（原文のまま）
文化元子	一八〇四	高誠	三月十一日隠居被仰付、金子五百疋被仰付ル
			八月十九日大洪水、井手川除破損、田畑不作
			献納銀壱人八百目指上、御代理金弐百疋被仰付ル
文化二丑	一八〇五	〃	六月十五日より参宮　七月廿七日罷下ケル
			殿様御郡廻り十月九日より　久部　坚田　下浦
			二の御村同廿二日より廿三日　御小休み

	文化四卯	一八〇七	(内)高誠
	文化六巳	一八〇九	〃
	文化九申	一八一二	(白)高翰
	文化十酉	一八一三	〃
	文化十四丑	一八一七	〃
	文化十五寅	一八一八	〃

御上下弐百八人 廿八日御帰城 田畑豊年

正月廿日 服頭町 出火

十二月三日 御城下出火 御組方残らず

古市町 中鳥 土井残らず 類焼

上直見村 赤水村 仁田原村 横川村 田辰村 中野村 右村のもの共大数罷越 家定村崩中ハ

当村 [illegible] 五郎権次 [illegible] かじ惣四郎 右四人其後召取られ(年貢)乃うしや 御付られハ 上直見村にて

□前道七五郎 三五郎 茂八 右四人乃うしや 赤水村にて居宅諸道具いたみに付三人目御上より

御心付 被仰付ハ

五月十二日 御料理の上五人扶持□□□へ被仰付ハ

御紋付御上下 帯上り被仰付

殿様御入部 六月廿七日御着城 被遊ハ

差上杉松捻 五千五十六本 小市部 千又向 上河内

右替地に立河内 高畑御水西所 被下置ハ

六月廿日 芝原焼失 火元与三郎 牛一疋□□□

焼申ハ

切畑辰岩井手去七月より始る 当 月荒々出来

□毛駒 獄上仕ハ迚 栗毛駒御替馬 被下置 八月

朔日御役人様申様 御礼申上

秋作豊作

御内意御座ハ 二付 紙御買上げ上メ御願申上、尤

冥加銀 紙漉共より四拾貫目差上ハ上 紙漉より

リ勝手に売払ハ様願上ハ得ども願不相叶、

極月廿五日紙漉紙作御中出御書付ヲ以御会所

にて御郡代より被仰渡ハ迚上野村中野村紙

漉の内にて高声にて口外の義申ハに付、西三人

	文政元寅	一八一八	(白)高翰
	文政二卯	一八一九	〃
	文政三辰	一八二〇	〃
	文政四巳	一八二一	〃
	文政五午	一八二二	〃

一、西村より御呼出役人共九日迚相□同日引

取、外村は廿七日□出ハ得共一統の願故一同引

取申度願上廿八日引取申ハ

御炭山御止メ御□作る人夫定夫 [illegible] 座運□

村々より上納塩勝手買取被仰付 尤其前大

坂留田屋茂平と申仁罷下り世話いたし半太夫

殿同座にて在村迚いたしハ

麦作 次秋作よし

麦作 次 秋作よし

正月十八日 疫病 四月迚に保蔵下六人 無偏相神

麦作次取実八歩、年二有之ハ得共止ニ無之

秋作八歩の年 前川除いたす 新洞□□

十年炭焼大無尽園当り右の内弐石分取園料

弐拾九石 [illegible] 貫 三十二番ふり田としにて一一

二月より三月中迚一統風流行、下野村、内坂野

浦中野村 仏のつる検地入、御□廻し 次

御郡代国矢 御目付山口 勘定頭首藤 御代官

山本 御勘定頭見習柳川□助 右五人へ紙献上

自分罷越 秋作不熟

七月廿九日、洪水前四度 十三ヶ水下に相成 右の内

組中二ヶ 三ヶ皆無 浦方不漁

閏正月十三日 助五郎代勤被仰付ハ

殿様御入国 正月廿七日 麦作中年

四月廿七日洪水にて麦流し 水高八尺、六月二日

大水、沖ノ原 棚井田 叛崎 土手切れ 田畑流崩

六月九日御代官 宮脇治右工門 横田鶴七郎 久助

との御検分 栗六月十三日まき直し 十月三日

□前作一日 棚井田 叛崎 沖原 [illegible] 二成申候

			十一月廿八日 津久見滝右エ門と申者 番五右(山原)ニテ打
			首、七日さらし、日見福正寺をころし、
			出石井戸松尾宮神前□仕ル 十一月廿八日せんぐ
			う、拝殿前年去四郎寄進
文政六未	一八二三	(中)高輪	正月八日より普請初る 土井内勘場建
			江川内杉三千六百三十本差上
			三月廿五日落野浦教順と中僧 番五右におい
			打首 七日さらし 是ハ願谷寺にて大坂浜の
			元光寺隠居をあやめ尤少々の手傷を負わせル
			十二月廿二日御運上御免被 仰付
文政七申	一八二四	〃	閏八月廿八日 蔭原勘場 類焼
文政八酉	一八二五	〃	七月十六日出立 十七日舟に乗り 要蔵十月廿二日
			罷帰り 斎藤氏御供にて江戸立帰り
			養賢寺十二月十三日焼失
			蔭原水口屋五月より質屋始メ
			極月廿八日 下野村大庄屋入替り
			十一月廿七日 中村大工打首 田嶋長太郎方へ盗
			人ニ入ル ニ付
文政九戌	一八二六	〃	正月十日より川さらへ 後蔭太六どの懸り
			石屋堅田 仁蔵
			三月廿二日より船尾渡日州大竹ケ大工参り、銀七拾
			匁にて受作 棚井田河原にて
			三月 山石井戸井口直し 庄屋蔭蔵 地目付儀太郎
			四月三日より六日まで 寿念寺鐘供養 五日鐘つき
			初め、寿念寺御頼ニ付 壱両金つき申ル

			二月廿七日日板ニ付与惣太 知恵下野村ニ同
			遣し申ル
			七月八日 同与惣太(快助後役)被 仰付ル
			七月十一日 遊行上人小野市泊 水口小庄屋
			養賢寺去酉十二月十三日焼失当十月十五日より
			普請を初ル 間本右エ門 御落役坂本小左エ門様
			御普請奉行西名兵□□様 御勘定山本四郎左エ門
			様 片岡新五右エ門様
			秋作 中年 勘場普請八月八日建
			諸作 中年
			十二月晦日 昼九つ時 土井内出火
			勘場□屋ふし原残る 炭小屋焼失
文政十亥	一八二七	〃	十一月十日より同十六日迄一七日間 御元祖様式百
			年忌日 十六日大庄屋小庄屋拝礼被 仰付ル
			差上物御雑事汁 右雑事御領分中一□ニ吉野
			氏より□立代割也
文政十三寅	一八三〇	〃	小野市貸場 初ニ七代目甚兵衛悴要蔵 部屋住り
			時右要蔵 始に手代下野村土井内源五郎 蔭原
			保五郎右両人参ル 竹田御上ハ深田副吉より貸
			取御触一切ハ事要蔵弐人にて仕出す
天保元寅	一八三〇		極月より(注改元)
			御料理の上御紋付 羽二重 三人扶持 被下置ル
天保三辰	一八三二	(上)高兼	殿様御隠居御願之通被 仰承若殿様御家
			督 御家老戸倉刑部様 御□□益田帯刀
			様不首ニテ御隠居

(つづく)